



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月7日

上場会社名 株式会社サンクゼール 上場取引所 東  
 コード番号 2937 URL <https://www.stcousair.co.jp/company>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久世 良太  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部本部長 (氏名) 河原 誠一 (TEL) 026-219-3902  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	13,183	—	1,178	—	1,207	—	789	—
2022年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 954百万円( —%) 2022年3月期第3四半期 一百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	102.59	95.99
2022年3月期第3四半期	—	—

(注) 2022年3月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2022年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2023年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	9,906	4,029	40.7
2022年3月期	6,464	1,355	20.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 4,027百万円 2022年3月期 1,353百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	35.00	35.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	33.00	33.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,938	19.6	1,333	1.3	1,314	△0.6	942	0.3	118.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名)、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	8,840,000株	2022年3月期	7,640,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年3月期3Q	一株	2022年3月期	一株
------------	----	----------	----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期3Q	7,692,363株	2022年3月期3Q	一株
------------	------------	------------	----

(注) 2022年3月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、期中平均株式数は記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文章中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。また、当社は、2022年3月期第3四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、2023年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年12月31日)における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」という。)による影響が落ち着き始めており、徐々に経済活動が正常化に向かう動きが見られました。しかし一方で、世界経済の混乱により、各国において資源価格や原料価格の高騰、物流の停滞等による物価高騰の影響が生じております。食品製造及び食品小売業界においては、資源価格高騰や円安による原材料及び商品調達価格の上昇並びに輸出入に係るサプライチェーンの混乱、さらに人手不足による人件費の上昇などの影響が業界全体の収益性を押し下げる状況が続いています。そして、費用負担上昇の影響により多くの食品で値上げが行われており、消費者の経済的負担が高まることで、今後の消費低迷、ひいては日本全体の景気の悪化が懸念される状況にあります。

このような状況において、当社グループでは、「愛と喜びのある食卓をいつまでも」のコーポレートスローガンの下、2025年3月期を最終年度とする中期経営計画に基づき、昨年からの重要施策に掲げているマーケティングや商品開発をさらに強化していくとともに、商品開発から販売に至るサイクルの高速化を徹底し、お客様のニーズに合った商品を素早く開発、製造、販売することで、お客様にとって価値のある商品を提供していくことに、より一層注力して取り組んでまいりました。また、高い成長が期待されるグローバル市場において、お客様の当社グループのブランド認知度を高めて売上高を伸ばしていくとともに、新たな事業の柱になる新規事業の開発にも積極的に取り組んでまいりました。

当第3四半期連結累計期間におきましては、当社グループにおきましても、前述の資源価格や原料価格の高騰及び急激な円安等の影響を受けて、やむを得ず9月と12月に一部商品について値上げを実施いたしました。お客様にとって価格に見合う価値のある商品を提供することを第一とし、引き続き、お客様のニーズに徹底的に耳を傾け、お客様が本当に欲しいと思っただけの商品の実現に取り組んでまいります。

サービス別の業績は、B to Cの販売チャネルである店舗(直営及びFC)につきましては、当社公式アプリ会員のデータから把握したお客様のニーズを商品開発・販売促進施策へとつなげていくことを継続的に実行し、既存店の収益性向上に努めてまいりました。当第3四半期連結累計期間において、既存店客数は、新型コロナウイルス感染症による影響が落ち着き、旅行需要の回復など消費の動向が変化したことに加え、インフレの影響で食品支出を抑制しようとする動きが見られる中、軽微な減少にとどまりました。一方、既存店客単価につきましては、1購買当たり購入点数の増加、商品価格の値上げにより、前年同期を上回って推移した結果、既存店売上高は、前年同期を上回り、堅調に推移いたしました。また、每期10店舗程度の新規出店を目標に店舗数の安定拡大に努めており、2022年10月にふかや花園プレミアム・アウトレット(埼玉県深谷市)へ「サンクゼール」業態と「久世福商店」業態を各1店舗ずつ同時出店するなど、当第3四半期連結累計期間において9店舗を新規出店いたしました。ECにつきましては、引き続きお客様からギフト用途として当社商品に対する高い支持をいただいております。当社公式ECサイトでメッセージカード添付機能を導入するなど、ギフト用途のさらなる利便性向上に努めました。また、2022年9月に久世福商店ブランドの商品が全国ネットのテレビ番組で取り上げられたことをきっかけとして、お客様の久世福商店ブランドの認知が高まり、その後のECサイトへのアクセス数の伸びにつながったことで、ECの売上高は前年同期比で伸長いたしました。B to Bの販売チャネルであるホールセールにつきましては、大手小売チェーンとの取引が継続して拡大しており、前連結会計年度の途中で採用された商品のその後の売上も堅調に推移していることから、前年同期比で売上高が伸長いたしました。また、グローバルにつきましては、米国及び台湾における大手小売チェーンに対する販売が伸びたことに加え、米国での新規顧客の開拓が進捗し、商品価格帯がミドル～ハイエンドの食品スーパーを中心に、複数の商品を当社オリジナルの棚仕器とともに納品し、当社ブランドの世界観を表現した中で商品を販売する施策が奏功し、新規顧客の開拓と既存顧客との取引拡大につながりました。この結果、前年同期比で売上高が伸長いたしました。

(注)当社グループでは、開店後18か月以上経過している店舗を「既存店」として客単価及び客数を集計しております。

なお、当社グループのみならず、当社グループを取り巻く社会全体が長期的に持続可能なものになるように、当

社グループが定めるサステナビリティ重点項目に従い、サステナビリティ経営に注力しております。サステナビリティ経営を推進する取り組みとして、2022年4月より当社飯綱本社（長野県上水内郡飯綱町）の食品製造工場及び関連施設において使用する電力の一部を、中部電力ミライズ株式会社が提供するCO2フリー電気「Greenでんき」へ切り替えました。また、2022年6月より国立大学法人信州大学の井田秀行教授の協力を得て、当社信濃町センター（長野県上水内郡信濃町）エリアの森を保護及び活性化することを目的としたプロジェクトを開始いたしました。これらの取り組みも含め、今後も持続可能で豊かな社会の実現のために、積極的に取り組んでまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高が131億83百万円となりました。営業損益は、主として売上高が増加したことに伴い、11億78百万円の営業利益となりました。経常損益は、為替差益21百万円及び当社子会社St. Cousair, Inc.において「給与保護プログラム（Paycheck Protection Program）」により返済免除を受けたことによる債務免除益36百万円などの営業外収益84百万円を計上した一方で、支払利息26百万円などの営業外費用54百万円を計上したことにより、12億7百万円の経常利益となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益は、税金費用4億27百万円を計上したことにより、7億89百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益となりました。

出店政策に関しましては、当社グループでは、商圈人口、賃貸条件、ROI C等の指標を総合的に勘案し、新規出店を行っております。当第3四半期連結累計期間におきましては、「サンクゼール」業態で1店舗、「久世福商店」業態で8店舗を新規出店いたしました。また、「久世福商店」業態の1店舗を直営店からFC加盟店へ運営主体の切り替えを行いました。その結果、当第3四半期連結累計期間末における店舗は直営店54店舗、FC加盟店102店舗、計156店舗となりました。

当第3四半期連結累計期間における業態別の店舗数は以下の通りです。直営店からFC加盟店へ運営主体の切り替えを行った店舗については、直営店の減少とFC加盟店の増加に含めて集計しております。

業態名	区分	前連結会計 年度末	増加	減少	当第3四半期連結 会計期間末
サンクゼール	直営店	11	1	-	12
	FC加盟店	4	-	-	4
	計	15	1	-	16
久世福商店	直営店	42	1	1	42
	FC加盟店	90	8	-	98
	計	132	9	1	140
全業態合計	直営店	53	2	1	54
	FC加盟店	94	8	-	102
	計	147	10	1	156

当社グループは、食品製造販売事業を単一の事業セグメントとしているため、セグメント情報の開示は省略しております。

当第3四半期連結累計期間におけるサービス別の売上高は以下の通りです。

区分	売上高（千円）
直営店	4,770,988
FC	4,565,784
EC	832,833
ホールセール	2,311,791

グローバル	701,731
計	13,183,128

## ① 直営店

当第3四半期連結累計期間における直営店の既存店客数及び客単価は、前述の通り、既存店客数が軽微な減少にとどまる中、既存店客単価が前年同期を上回って推移いたしました。また、2022年10月にふかや花園プレミアム・アウトレットへ直営店2店舗を新規出店いたしました。その結果、当第3四半期連結累計期間における直営店に係る売上高は47億70百万円となりました。

## ② F C

当第3四半期連結累計期間におけるF Cの既存店客数及び客単価は、直営店に記述した通りです。また、当第3四半期連結累計期間を通じて、F C加盟店7店舗を新規出店いたしました。その結果、F Cに係る売上高は45億65百万円となりました。

## ③ E C

当第3四半期連結累計期間におきましては、ギフト商品としての認知度が高まるとともに、テレビ番組への露出効果も奏功し、E Cの利用者数が継続して増加したことで売上は堅調に推移いたしました。その結果、E Cに係る売上高は8億32百万円となりました。

## ④ ホールセール

当第3四半期連結累計期間におきましては、大手小売チェーンとの取引が継続して拡大いたしました。前第3四半期連結会計期間以降に採用された商品は、当第3四半期連結累計期間においても売上は堅調に推移しており、売上増加に寄与しました。その結果、ホールセールに係る売上高は23億11百万円となりました。

## ⑤ グローバル

当第3四半期連結累計期間におきましては、米国及び台湾において大手小売チェーンに対する販売が増加したことに加え、国内での新規顧客開拓及び既存顧客との取引が堅調に拡大いたしました。以上の結果、グローバルに係る売上高は7億1百万円となりました。国別の内訳は、米国顧客への売上高が4億37百万円、台湾顧客への売上高が2億46百万円、その他の地域への売上高が17百万円であります。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は99億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ34億42百万円増加いたしました。これは、2022年12月21日に東京証券取引所グロース市場へ上場したことに伴い、公募（ブックビルディング方式による募集）による新株式1,200,000株を発行したこと等の要因により、現金及び預金が19億98百万円増加したこと、さらに売上高の増加により売掛金が7億87百万円増加したこと等によるものであります。

負債は58億77百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億68百万円増加いたしました。これは、商品仕入高の増加により支払手形及び買掛金が4億25百万円、法人税等の支払に充当すること等を目的に短期借入金2億82百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

純資産の部に関しては、前述の新株式の発行に伴い、資本金及び資本剰余金がそれぞれ9億93百万円増加したことに加えて、親会社株主に帰属する四半期純利益7億89百万円の計上によって利益剰余金が5億21百万円増加したこと等の要因により、株主資本は前連結会計年度末に比べ25億8百万円増加し、38億29百万円となりました。また、為替相場が円安に推移した影響で、為替換算調整勘定は前連結会計年度末から1億55百万円増加し、1億80百万円となりました。以上の結果、純資産合計は、前連結会計年度末に比べ26億73百万円増加し、40億29百万円となりました。その結果、自己資本比率は40.7%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月21日に発表した通期の業績予想から、現時点で変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,249,371	3,248,262
売掛金	1,408,708	2,196,420
商品及び製品	997,174	1,130,762
仕掛品	87,784	130,556
原材料及び貯蔵品	309,237	513,319
その他	108,126	135,348
貸倒引当金	△66	△62
流動資産合計	4,160,337	7,354,607
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,062,429	2,161,533
減価償却累計額	△1,375,108	△1,423,781
建物及び構築物 (純額)	687,320	737,752
その他	1,614,658	1,747,066
減価償却累計額	△745,669	△833,394
その他 (純額)	868,988	913,672
有形固定資産合計	1,556,309	1,651,424
無形固定資産		
のれん	109,303	118,260
その他	30,372	34,142
無形固定資産合計	139,675	152,403
投資その他の資産		
その他	609,305	749,605
貸倒引当金	△1,176	△1,176
投資その他の資産合計	608,128	748,429
固定資産合計	2,304,114	2,552,256
資産合計	6,464,452	9,906,864

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,193,713	1,619,528
電子記録債務	180,075	194,803
短期借入金	772,437	1,054,810
1年内返済予定の長期借入金	338,914	153,166
未払法人税等	359,690	284,308
賞与引当金	89,060	128,850
役員賞与引当金	—	12,364
資産除去債務	3,902	—
その他	606,980	949,420
流動負債合計	3,544,775	4,397,251
固定負債		
社債	100,000	100,000
長期借入金	1,083,791	969,559
退職給付に係る負債	47,946	66,133
資産除去債務	123,935	139,946
その他	208,221	204,363
固定負債合計	1,563,895	1,480,002
負債合計	5,108,670	5,877,254
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	126,299	1,119,899
資本剰余金	291,299	1,284,899
利益剰余金	903,060	1,424,802
株主資本合計	1,320,658	3,829,600
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,388	17,522
為替換算調整勘定	24,157	180,115
その他の包括利益累計額合計	32,546	197,638
非支配株主持分	2,577	2,370
純資産合計	1,355,782	4,029,609
負債純資産合計	6,464,452	9,906,864



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	13,183,128
売上原価	7,977,850
売上総利益	5,205,277
販売費及び一般管理費	4,027,095
営業利益	1,178,182
営業外収益	
受取利息	101
受取配当金	0
為替差益	21,737
デリバティブ評価益	2,475
債務免除益	36,138
その他	23,818
営業外収益合計	84,272
営業外費用	
支払利息	26,210
株式交付費	27,027
その他	1,271
営業外費用合計	54,509
経常利益	1,207,945
特別利益	
固定資産売却益	8,773
特別利益合計	8,773
税金等調整前四半期純利益	1,216,718
法人税、住民税及び事業税	441,497
法人税等調整額	△13,713
法人税等合計	427,783
四半期純利益	788,935
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△207
親会社株主に帰属する四半期純利益	789,142

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	788,935
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	9,134
為替換算調整勘定	155,957
その他の包括利益合計	165,091
四半期包括利益	954,027
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	954,234
非支配株主に係る四半期包括利益	△207

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年12月21日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。株式上場にあたり、2022年12月20日を払込期日とする公募（ブックビルディング方式による募集）による新株式1,200,000株の発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ993,600千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結期間末において、資本金が1,119,899千円、資本剰余金が1,284,899千円となっております。